



TITLE:

【部局史編 1】 表紙ほか

AUTHOR(S):

京都大学百年史編集委員会

CITATION:

京都大学百年史編集委員会. 【部局史編 1】 表紙ほか. 京都大学百年史 : 部局史編 ; 1 1997

ISSUE DATE:

1997-09-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/152985>

RIGHT:

京都大学百年史

部局史編 1

題字 井村 裕夫

序 文

京都大学は、1897(明治30)年にわが国第2の帝国大学として創設された。分科大学の設置順は、理工科(1897)、法科及び医科(1899)、文科(1906)大学の順である。1914年には理工科大学が理科、工科大学に分けられ、1919年には分科大学は学部と改称された。その後経済、農、教育、薬、総合人間学部が設置され、現在では10学部、11研究科を数えている。

一方附置研究所としては、1926年の化学研究所に始まり、人文科学研究所など総計13の研究所が設けられている。さらに研究あるいは教育のためのセンターは、総合博物館を含めると18を数えている。

このように現在の京都大学は多数の部局よりなる統合体である。そしてそれぞれの部局は、自治組織として個性を発揮し、独自の発展を遂げてきた。このことは京都帝国大学が、4つの分科大学の集合体として発足したことと、関わりがあるのかも知れない。いずれにせよ、京都大学の歴史を語るとき、大学全体の通史のみでは不十分で、部局史が必要であるのも、単に大学の規模の大きさのみでなく、部局の独自性によるところが大きい。個々の部局が刻んできた歴史の襞に触れることによって、初めて京都大学の歴史の全貌を知ることができるであろう。

京都大学が創立百周年を迎え、その第2の世紀へ一步を踏み出そ

うとしている現在、世界の大学は大きい変革の波に洗われている。そして大学はもはや象牙の塔ではあり得ず、内にも外にも開かれねばならない時代となってきた。内に開くという意味は、学問がボーダーレスとなり、学際領域が急速に発展しつつあるため、従来の部局の枠を越えた研究、教育体制が必要となっていることである。京都大学においても大学院人間・環境学研究科、大学院エネルギー科学研究科や、高等教育教授システム開発センター、総合博物館、総合情報メディアセンターなど、学際領域の組織が次々と生まれている。この傾向は、今後更に加速されるものと考えられる。

大学は、また様々な意味で外に開かれねばならない時代となっている。学問の進歩によって生涯学習が必要となり、社会人学生の受け入れが進んでいる。またグローバル化とともに、国際交流も活発となり、京都大学においても学部学生の短期交流プログラム(KUINEP)が本年から発足しようとしている。またスペース・コラボレーション・システムを始め、新しい情報メディアを用いた大学間の教育・研究の交流も始まっている。そして産・官・学の協力による研究開発の必要性も増しており、本学でもベンチャー・ビジネス・ラボラトリーが発足した。代表的な象牙の塔と考えられた京都大学も大きい変革の時代を迎えている。大学が、そのアイデンティティを保ちながら、如何にボーダーレスの時代に対処するか、それがこれからの難しい、しかしチャレンジングな課題であろう。

大学のあり方が、そして部局の体制が大きく変化しようとしている現在、百年史の部局史編は大変大きい意味を持っている。それはそれぞれの部局が、時代の影響を受けながら歩んだ歴史が、百周年の時点で克明に記載されているからである。今後大学の組織がどの

ように変化しようと、それぞれの部局で培われた知の伝統は、京都大学の内外で脈々と引き継がれて行くであろう。

最後に部局史編の執筆にあたって尽力された部局編集委員の各位に深甚のお礼を申し上げる。なお本書は京都大学後援会の御支援により出版されるものであり、記して謝意を表する。

平成9年6月18日

京都大学総長 井村 裕夫

凡 例

- 1 京都大学百年史は、京都大学百年史編集委員会が編集する京都大学百年の歴史であり、総説編 1 巻、部局史編 3 巻、資料編 3 巻よりなる。
- 2 部局史編は、平成 6 (1994) 年 3 月 31 日現在、京都大学を構成する学部・研究科・研究所・センター等の部局、医療技術短期大学部、および平成 5 (1993) 年 3 月 31 日に廃止された教養部について記述したものである。
- 3 部局史編 3 巻の構成は、次の通りである。

部局史編 1 総合人間学部 文学部 教育学部 大学院法学研究科・法学部 経済学部 大学院理学研究科・理学部 大学院医学研究科・医学部、医学部附属病院 薬学部 (本巻)

部局史編 2 工学部 農学部 農学部附属農場 農学部附属演習林 大学院人間・環境学研究科 (旧)教養部 化学研究所 人文科学研究所 胸部疾患研究所 原子エネルギー研究所 木質科学研究所

部局史編 3 食糧科学研究所 防災研究所 基礎物理学研究所 ウィルス研究所 経済研究所 数理解析研究所 原子炉実験所 霊長類研究所 東南アジア研究センター 保健管理センター 大型計算機センター 放射性同位元素総合センター 体育指導センター ヘリオトロン核融合研究センター 放射線生物研究センター 環境保全センター 情報処理教育センター 超高層電波研究センター アフリカ地域研究センター 遺伝子実験施設 生体医療工学研究センター 留学生センター 生態学研究センター 埋蔵文化財研究センター 医療技術短期大学部

4 記述については、以下の要領によった。

- (1) 敬称・敬語は使用しない。
- (2) 本文は常用漢字、現代仮名遣いを使用した。ただし、人名などの固有名詞およびかな書きでは意味をとりにくい用語などはこの限りではない。
- (3) 資料引用文は常用漢字を用いたが、かなづかい、送りがなは原文によった。
- (4) 原則として和文の書名・雑誌名・新聞名等は『 』、論文名・研究題目等は「 」で表し、欧文の場合はそれぞれ“ ”、‘ ’で表記した。
- (5) 年代の表記は、年号・西暦の併記を原則とし、どちらを主とするかは各部局内部で統一をはかった。

目 次

序 文	京都大学総長 井村裕夫
凡 例	
図表一覧	
写真一覧	

第 1 章 総合人間学部

第 1 節 総 記	2
-----------------	---

第 1 項 学部の概要 2

第 2 項 沿革と現状 7

第 3 項 附属施設 9

1. 図書館 9
2. 語学実習室(Language Laboratory) 10
3. 情報処理演習室 10
4. その他 11

第 2 節 研究の現状	12
-------------------	----

第 1 項 人間学科 12

1. 人間基礎論講座 12
2. 生活空間論講座 14

第 2 項 国際文化学科 15

1. 文化構造論講座 16
2. 文明論講座 17
3. 言語文化論講座 18
4. 日本・中国文化・社会論講座 20
5. 欧米文化・社会論講座 21

第 3 項 基礎科学科 23

1. 数理基礎論講座 23
2. 情報科学論講座 25
3. 自然構造基礎論講座 26

第4項 自然環境学科 28

- 1.物質環境論講座 29
- 2.生物・地球圏環境論講座 31
- 3.環境適応論講座 32

第2章 文学部

第1節 総記 36

第1項 文科大学時代 36

- 1.創設 36
- 2.研究体制 37
- 3.授業の体制 39
- 4.研究施設 41
- 5.学会・機関誌・出版物 42

第2項 旧制文学部時代 43

- 1.大正期 43
- 2.昭和期 45

第3項 新制文学部時代 47

- 1.新制大学の設置 48
- 2.講座・学科の増設 49
- 3.研究施設 52
- 4.学会・機関誌・出版物 53
- 5.大学紛争と文学部 54

第2節 各講座の歴史 56

第1項 哲学科 56

- 1.哲学 56
- 2.西洋哲学史 59
- 3.インド哲学史 66
- 4.中国哲学史 69
- 5.倫理学 73
- 6.美学美術史学 76
- 7.宗教学 81
- 8.キリスト教学 84
- 9.仏教学 87

第2項 史学科 90

- 1.国史学 90
- 2.東洋史学 95
- 3.西洋史学 106
- 4.現代史学 112
- 5.西南アジア史学 116
- 6.考古学 120

第3項 文学科 123

1. 国語学国文学 123 2. 中国語学中国文学 128
3. 梵語学梵文学 133 4. フランス語学フランス文学 137
5. 英語学英文学 142 6. アメリカ文学 147 7. ドイツ語学ドイツ文学 150
8. 西洋古典語学西洋古典文学 153
9. イタリア語学イタリア文学 156 10. 言語学 159

第4項 文化行動学科 163

1. 心理学 163 2. 言語科学 168 3. 社会学 168
4. 地理学 173 5. 科学哲学科学史 179

第3章 教育学部

第1節 総記 182

- 第1項 教育学部の創設 182
- 第2項 教育学部の前史と研究・教育体制の整備 183
- 第3項 大学院教育学研究科の開設と発展 186
- 第4項 教職教育の充実 189
- 第5項 現職教員の再教育 191
- 第6項 学生生活の変遷 193

第2節 学科・部門の発展 199

- 第1項 教育学科 199
 1. A部門 199 2. B部門 207
- 第2項 教育心理学科 213
 1. C部門 213 2. 臨床教育学専攻 220 3. 心理教育相談室 222
- 第3項 教育社会学科 223

1. D部門 223 2. E部門 231

第3節 事務機構および施設・設備の充実 237

第4章 大学院法学研究科・法学部

第1節 総 記 242

第1項 法科大学(1899～1919年) 242

1. 法科大学の創設 242 2. 法科大学と大学自治 251
3. 研究・教育体制の変遷 261

第2項 旧制法学部(1919～49年) 264

1. 帝国大学令改正から昭和初期まで 264 2. 京大(瀧川)事件 271 3. 戦時下 285 4. 敗戦後 289

第3項 新制法学部(1949～92年) 291

1. 新制大学の発足 291 2. 高度経済成長下 295
3. 研究・教育体制の再編 300

第4項 大学院法学研究科・法学部(1992年～) 304

第2節 講座の発展 309

第1項 基礎法学 309

1. 法史学講座 309 2. 法理学講座 313 3. 法社会学講座 316 4. 外国法講座 316

第2項 公 法 318

1. 憲法講座 318 2. 行政法講座 325
3. 租税法講座 328 4. 国際法講座 329

第3項 民刑事法 333

1. 民事法講座 333 2. 商事法講座 340 3. 経済法講座 347
4. 社会法講座 348 5. 民事手続法講座 350
6. 涉外関係法講座 353 7. 刑事法講座 356

第4項 政治学 361

1. 政治理論講座 361 2. 政治外交史講座 364 3. 国際政治学講座 367
4. 比較政治講座 368 5. 現代政治行政分析講座 369

第5項 総合法政分析講座 371

第3節 施設 373

第1項 建造物 373

第2項 図書室 374

第3項 国際法政文献資料センター 374

第4項 法学会 375

第5項 有信会 376

第5章 経済学部

第1節 総記 378

第1項 戦前期の経済学部 378

1. 京都帝国大学法科大学と経済学の研究教育体制 378
2. 経済学部の創設と大正自由主義 382 3. 時代の暗転と河上・瀧川事件 388
4. 戦時体制下の経済学部 393

第2項 経済学部の再建と新制大学 398

1. 教官の総退陣と経済学部の再建 398 2. 新制大学下の経済学部 402
3. 経営学科の新設および経済研究所

の設置 406

第3項 大学紛争期の経済学部 408

1. 大学紛争と経済学部 409 2. 竹本問題と1970年代の
経済学部 413

第4項 講座改革と学部・大学院の充実 417

1. 国際化・情報化への胎動 417 2. 大講座制の導入と
学部改革 419 3. 学部70周年を展望して——国際化・
情報化の中で 423 4. 大学院重点化を目指して 427

第2節 講座の発展 431

1. 経済原論 431 2. 経済学史 435 3. 統計学 437
4. 金融論 439 5. 経済史 441 6. 社会思想史 443
7. 社会政策 445 8. 経済政策 447 9. 世界経済論 450
10. 産業経済論 451 11. 財政学 453 12. 経営学原
理 455 13. 経営史 456 14. 経営政策 457 15. 交
通論 459 16. 会計学 460 17. マーケティング
論 461 18. 現代経済学 463 19. 日本経済論 464
20. 応用経済学 464 21. 開発経営組織政策 465
22. その他の教育科目 465

第3節 経済学会と教育・研究支援体制 467

1. 経済学会 467 2. 調査資料室 469 3. 情報化の進
展と ECOMIS 471 4. 図書室 472 5. 特殊文庫 474

第6章 大学院理学研究科・理学部

第1節 総 記 478

第1項 機構の変遷 478

1.旧制理理学部時代 478 2.新制理理学部時代 481

3.理理学部事務組織 486

第2項 建物の変遷 488

第3項 理理学部のカリキュラムの変遷 491

第2節 講座の発展 495

第1項 数 学 科 495

1.講座の変遷と現状 495 2.建物の変遷 504 3.数学
教室における数学教育・カリキュラムの変遷 506 4.公
開講座 510 5.受賞者名簿 513

第2項 物理学科 514

1.沿革 514 2.講座の変遷 522 3.国際交流等 530
4.戦後の教育体制、教室体制の変遷 532 5.大学院分
科・研究室の研究活動 539

第3項 宇宙物理学科 556

1.沿革 556 2.設備・施設 557 3.研究内容 559
4.国際協力 561

第4項 附属天文台 562

第5項 地球物理学科 567

1.学科の変遷 567 2.講座の変遷 570

第6項 地球物理学科関係の施設 580

1.地球物理学研究施設 580 2.火山研究施設 582
3.地磁気世界資料解析センター 584 4.阿武山地震観
測所 586 5.逢坂山地殻変動観測所 586 6.徳島地
震観測所 586 7.地震予知観測地域センター 587
8.琵琶湖古環境実験施設 587 9.気象学特別研究所・
気候変動実験施設 589

第7項 地質学鉱物学科 591

- 1.創設期 591
- 2.帝国大学時代 592
- 3.第2次大戦後の学制改革から大学の拡大の時代へ——新制大学時代 595
- 4.大学の転換期・変革の時代——昭和43(1968)年から現在 598

第8項 化学科 602

- 1.沿革 602
- 2.各講座の教授と研究概要の変遷 607

第9項 動物学科 628

- 1.沿革 628
- 2.講座の変遷 632

第10項 動物学科関係の施設(瀬戸臨海実験所) 641

第11項 植物学科 644

- 1.沿革 644
- 2.講座の変遷 648

第12項 附属植物園 655

第13項 生物物理学科 658

- 1.設立 657
- 2.教育 659
- 3.大学院 659
- 4.教官 660
- 5.施設設備 662
- 6.図書室 663
- 7.研究内容 663
- 8.分子発生生物学研究センター 672
- 9.事務室 672

第7章 大学院医学研究科・医学部、医学部附属病院

第1節 総記 676

第1項 沿革 676

- 1.概要——医学部の歴史と『京都大学七十年史』以後の歩み 676
- 2.主な出来事の年表 681
- 3.学部教育の改革

と充実 684 4.研究活動——京都大学医学部を象徴するもの 689 5.大学院重点化——高度の教育・研究を目指して 692 6.医学・医療と倫理 696 7.国際化・対外的活動 697 8.管理・運営 701 9.敷地・建物 704
10.学生生活・課外活動 706 11.これからの課題と将来への展望 707

第2項 大学院重点化の目標と過程 715

1.医学部の新制大学院設置とその後の経過 716 2.大学院重点化の目的 717 3.具体的編成 718 4.新しい大学院コース 719 5.学部教育と診療科の改革との連携 719 6.結語 720

第3項 学部教育 722

第4項 大学院教育 729

第5項 大学紛争 731

第6項 医学部の建物 734

第7項 医学図書館 741

第8項 RI 学生実習室・研究室 743

第9項 医の倫理委員会 745

第10項 医学部国際交流委員会 748

第11項 京大白菊会 749

第12項 附属医学専門部の沿革(昭和14～27<1939～52>年) 750

1.総記 750 2.施設と講座の発展 750 3.教授陣容 751 4.卒業生 753 5.廃校 753

第2節 講座等 754

第1項 生理系 754

1.生体情報科学講座生体情報科学(旧生体情報科学講座
<旧附属免疫研究施設アレルギー部門>) 754 2.生体構

造医学講座形態形成機構学(旧解剖学第1講座<旧解剖学第3講座>) 756 3. 生体構造医学講座機能微細形態学(旧解剖学第2講座) 759 4. 生体制御医学講座細胞機能制御学(旧生理学第2講座) 763 5. 生体制御医学講座循環生理学(旧薬理学第1講座) 766

第2項 病理系 770

1. 腫瘍生物学講座腫瘍生物学(旧病理学第2講座) 770
2. 基礎病態学講座病態生物医学(旧病理学第1講座) 774
3. 感染・免疫学講座微生物感染症学(旧微生物学講座) 776
4. 感染・免疫学講座免疫細胞生物学(旧感染・免疫学講座<旧附属免疫研究施設免疫生物学部門>) 780

第3項 社会医学系 782

1. 社会予防医学講座環境医学(旧衛生学講座) 782
2. 社会予防医学講座公衆衛生学(旧公衆衛生学講座) 786
3. 社会予防医学講座法医学(旧法医学講座) 788

第4項 分子医学系 791

1. 分子生体統御学講座分子生物学(旧医化学第1講座) 791
2. 分子生体統御学講座分子細胞情報学(旧医化学第2講座) 795 3. 分子生体統御学講座分子腫瘍学(旧分子腫瘍学講座) 797 4. 遺伝医学講座分子遺伝学(旧分子遺伝学講座) 800 5. 遺伝医学講座放射線遺伝学(旧放射能基礎医学講座) 802 6. 遺伝医学講座分子病診療学(旧分子病診療学講座) 805 7. 遺伝医学講座腫瘍外科学(旧外科学第1講座) 807

第5項 脳統御医科学系 809

1. 高次脳科学講座高次脳形態学(旧解剖学第1講座) 809
2. 高次脳科学講座認知行動脳科学(旧認知行動脳科学専攻) 813 3. 高次脳科学講座神経生物学(旧生理学第1講座) 815 4. 高次脳科学講座神経・細胞薬理学(旧薬

理学第2講座) 817 5. 脳病態生理学講座臨床脳生理学(旧脳病態生理学講座) 820 6. 脳病態生理学講座臨床神経学(旧神経内科学講座) 822 7. 脳病態生理学講座脳神経外科学(旧脳神経外科学講座) 824 8. 脳病態生理学講座心理医学(旧精神医学講座) 828

第6項 内科系 832

1. 臨床病態医科学講座臨床病態医科学(旧内科学第2講座) 832 2. 臨床器官病態学講座血液病態学(旧内科学第1講座) 836 3. 臨床器官病態学講座循環病態学(旧内科学第3講座) 839 4. 臨床器官病態学講座皮膚病態学(旧皮膚病学黴毒学講座) 844 5. 臨床生体統御医学講座成人・老年病病態学(旧老年医学講座) 847
6. 臨床生体統御医学講座臨床病態検査学(旧臨床検査医学講座) 849 7. 発生発達医学講座発達小児科学(旧小児科学講座) 852 8. 放射線医学講座腫瘍放射線科学(旧放射線医学講座) 855 9. 放射線医学講座核医学・画像診断学(旧核医学講座) 859

第7項 外科系 862

1. 器官外科学講座消化器外科学(旧外科学第2講座) 862
2. 器官外科学講座婦人科学産科学(旧婦人科学産科学講座) 864 3. 器官外科学講座泌尿器病態学(旧泌尿器科学講座) 867 4. 器官外科学講座心臓血管外科学(旧心臓血管外科学講座) 870 5. 器官外科学講座臨床病態生理学(旧麻醉学講座) 872 6. 感覚運動系病態学講座筋・骨格系病態学(旧整形外科学講座) 874 7. 感覚運動系病態学講座視覚病態学(旧眼科学講座) 877 8. 感覚運動系病態学講座聴覚・言語病態学(旧耳鼻咽喉科学講座) 881 9. 感覚運動系病態学講座口腔機能病態学(旧口腔外科学講座) 884 10. 感覚運動系病態学講座

形成外科学(旧形成外科学講座) 887

第8項 附属施設等 890

- 1.動物実験施設 890
- 2.先天異常標本解析センター 893
- 3.総合解剖センター 895

第3節 附属病院 897

第1項 沿革 897

- 1.創設から戦前まで 897
- 2.戦後から現在まで 899

第2項 卒後臨床研修・関連病院長会議 911

- 1.はじめに 911
- 2.卒後初期臨床研修の現実と問題点 911
- 3.卒後臨床研修の理想像 912
- 4.京大方式による新しい卒後臨床研修 913
- 5.京大関係病院について 915

第3項 附属病院と大学紛争 917

- 1.大学紛争について 917
- 2.病棟移転紛争 919

第4項 附属病院の建物 919

第5項 中央診療部 923

- 1.検査部 923
- 2.手術部 925
- 3.放射線部 925
- 4.救急部 927
- 5.薬剤部 928
- 6.輸血部 932
- 7.医療情報部 935
- 8.人工腎臓部 937
- 9.病理部——病理学教室病理組織検査室と附属病院病理部 938
- 10.病態栄養部 939
- 11.集中治療部 940
- 12.デイ・ケア診療部 941
- 13.光学医療診療部 942
- 14.総合診療部 943
- 15.麻酔部 946
- 16.理学療法部 946
- 17.材料部 947
- 18.分娩部 947

第6項 その他の施設等 949

- 1.高圧酸素治療室 949
- 2.未熟児センター 950
- 3.狂犬病治療研究室ならびに予防接種治療室 951
- 4.皮膚

第4節 財(社)団法人…………… 954

- 第1項 社団法人芝蘭会 954
- 第2項 財団法人和進会 954
- 第3項 財団法人藤原記念財団 955
- 第4項 財団法人体質研究会 956
- 第5項 財団法人和風会 956

第8章 薬学部

第1節 総 記…………… 960

- 第1項 医学部薬学科の設立と旧制時代(昭和14～24年) 960
- 第2項 新制大学および新制大学院の発足と薬学部への胎動(昭和24～35年) 969
 - 1.新制大学発足 969 2.学部教育 971 3.新制大学院発足 971 4.大学院教育および研究 972 5.薬学部への胎動 972
- 第3項 薬学部創立以降(昭和35～平成6年) 973
 - 1.薬学部の誕生 973 2.大学紛争 978 3.薬用植物園・温室の整備 980 4.講座編成の一部変更 981
 - 5.薬学部創設50周年記念事業 982 6.薬用植物園研究室・製薬製剤実習棟の新設 983 7.研究設備の充実 983
 - 8.薬学部における教育改革 984 9.薬品作用制御システム専攻(独立専攻)の設置 984

第2節 講座、施設等の発展 986

1. 薬品分析学講座 986
2. 薬品製造学講座 989
3. 有機薬化学講座 991
4. 無機薬化学講座 994
5. 情報薬学講座 996
6. 生薬学講座 997
7. 薬剤学講座(動態制御システム薬剤学講座) 1000
8. 生物化学講座 1003
9. 薬用植物化学講座 1005
10. 薬理学講座 1008
11. 薬品工学講座 1011
12. 微生物薬品学講座 1013
13. 薬品物理化学講座 1015
14. 衛生化学講座 1017
15. 放射性薬品化学(病態機能分析学)講座 1020
16. 分子作用制御学講座 1022
17. 遺伝子薬品学講座 1023
18. 有機微量元素分析総合研究施設 1024
19. 薬用植物園 1025
20. 薬学部図書室 1027

図表一覧

第1章 総合人間学部

- 図1-1 総合人間学部の学科・講座相関図 5
- 表1-1 総合人間学部の学科・講座分野表 4
- 表1-2 総合人間学部教職員数 6

第2章 文学部

- 表2-1 文科大学講座設置年月表 38
- 表2-2 文学部人文学科組織図 51
- 表2-3 西洋史学大学院生数の変動 112

第3章 教育学部

- 表3-1 修士課程入学者および修士課程修了者数 187
- 表3-2 近年の修士課程入学者および修了者数と博士後期課程入・進学者数 188
- 表3-3 教育学研究科における博士の学位授与者数 188
- 表3-4 近年の教育実習参加者数、教育職員免許状取得者数、教職科目履修者数 190
- 表3-5 近年における外国人留学者数 192
- 表3-6 教育学部における入学試験の教科別配点 196

- 表3-7 近年の学科・部門別学生数 198
- 表3-8 A部門における文部省科学研究費補助金による総合研究 206
- 表3-9 心理教育相談室料金表 222
- 表3-10 最近5年間のケース数 222
- 表3-11 教育学部長 239
- 表3-12 教育学部事務長 239

第5章 経済学部

- 図5-1 外国人学者による研究集会等 428
- 図5-2 戦後における経済学部講座の変遷 432
- 表5-1 経済学部各種委員会の報告書 422

第6章 大学院理学研究科・理学部

- 図6-1 現在の本部構内理学部配置図 489
- 図6-2 現在の北部構内理学部配置図 490
- 図6-3 物理学科卒業生(主として物理学を修めた者)および大学院修士課程修了者数の変化 521
- 図6-4 化学科学生数の変遷 606

表6-1 理学研究科の専攻と講座

485

表6-2 公開講座 510

表6-3 受賞者名簿 513

表6-4 地球物理学科講座の変遷

568

表6-5 講座／関連研究施設と国際協

会の対応 570

表6-6 大講座名、大学院分科名、旧講

座名および現在の教官 604

表6-7 動物学科(瀬戸臨海実験所を

含む)の構成 629

表6-8 植物学科の構成 648

第7章 大学院医学研究科・医学部、 医学部附属病院

図7-1 医学部カリキュラム改革の経
過 726

図7-2 明治42(1909)年頃の医学部
735

図7-3 昭和32(1957)年前後の医学部
736

図7-4 平成6(1994)年の医学部
737

図7-5 京都大学医学部附属病院機構
図 901

表7-1 大学院医学研究科・医学部歴
代職員一覧 708

表7-2 大学院重点化基幹講座移行一
覧 721

表7-3 昭和30年頃の医学部専門課程
における授業科目・時間数

724

表7-4 昭和30年代の医学部各学年で
行われた試験科目・期日 725

表7-5 レベル教科における改革前後
の対比 726

表7-6 システム教科における改革前
後の対比 727

表7-7 臨床実習における改革前後の
対比 728

表7-8 歴代医学図書館長 742

表7-9 附属医学専門部職員一覧
752

表7-10 附属病院歴代職員一覧 905

表7-11 輸血部の歴代部長、副部長
933

第8章 薬学部

図8-1 機構図 1038

表8-1 医学部薬学科設立時の教官
961

表8-2 医学部薬学科設立時の授業担
当者 961

表8-3 薬学部創立当時の教官 974

表8-4 昭和41(1966)年当時の講座お
よび教官 977

表8-5 歴代学部長 1029

表8-6 職員数 1029

表8-7 教官等一覧 1030

表8-8 学生定員および現員 1033

表8-9 大学院学生定員および現員
1033

表8-10 学部卒業者数 1034

表8-11 大学院修了者数 1034

表8-12 学位授与者数 1034

表8-13 卒業生進路状況 1035

表8-14 修士課程修了者進路状況
1035

表8-15 博士後期課程修了者進路状況
1035

表8-16 卒業生就職状況一覧(年度別
在職者総数) 1036

表8-17 研究生、研修員等 1036

表8-18 外国人留学生 1036

表8-19 図書および学術雑誌 1036

表8-20 建物面積 1037

写真一覧

第1章 総合人間学部	写真6-12 飛驒天文台 565
写真1-1 構内自転車雑踏 7	写真6-13 地球物理学研究施設 580
写真1-2 図書館外景 10	写真6-14 火山研究施設の本館 582
写真1-3 演習室内 10	写真6-15 阿武山地震観測所 586
写真1-4 グラウンド 11	写真6-16 昭和52年頃の下鴨気象学特別研究所 590
 第5章 経済学部	写真6-17 動物学・植物学教室旧館 631
写真5-1 河上教授辞職決定について書かれた評議会議事録 390	写真6-18 動物学教室別館 632
 第6章 大学院理学研究科・理学部	写真6-19 理学2号館 633
写真6-1 昭和2年航空写真の一部 488	写真6-20 初代動植物学教室の玄関(昭和10年1月撮影) 645
写真6-2 数学教室正面 505	 第7章 大学院医学研究科・医学部、医学部附属病院
写真6-3 数学教室南棟 505	写真7-1 法医学教室本館 738
写真6-4 数学教室新館 505	写真7-2 旧生理学教室本館 738
写真6-5 旧々物理学科本館(東の部分) 516	写真7-3 火災前の病理学教室の玄関(明治37～大正14年) 739
写真6-6 旧物理学科本館 517	写真7-4 病理学教室本館 739
写真6-7 昭和40年の新館着工前のタンドムバンデグラフ実験棟(中央)、中庭、工場(左下)、旧南館(右端) 518	写真7-5 医化学・薬理学教室本館 740
写真6-8 現在の物理学教室新館の全景 520	写真7-6 医の倫理委員会 747
写真6-9 大宇陀観測所全景 558	写真7-7 薬理学教室 769
写真6-10 屋上ドーム全景 559	写真7-8 旧法医学教室の取り壊し風景 789
写真6-11 花山天文台 562	写真7-9 同上 789
	写真7-10 旧皮膚病学黴毒学教室本館

	844	写真7-15	附属医院本館風景	920
写真7-11	皮膚病学・泌尿器科学講座 診療棟	写真7-16	附属病院(昭和31年撮影の 航空写真)	921
写真7-12	井上五郎助教授診療風景 868	写真7-17	附属病院(昭和45年撮影) 921	
写真7-13	附属医院本館正面	写真7-18	附属病院(平成4年撮影) 922	
写真7-14	外科入院患者診療風景 898			

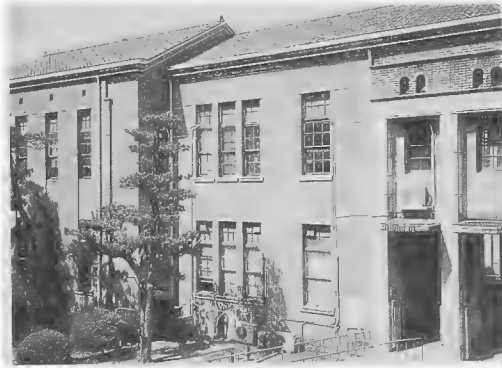
第 1 章

総合人間学部



第 2 章

文 学 部



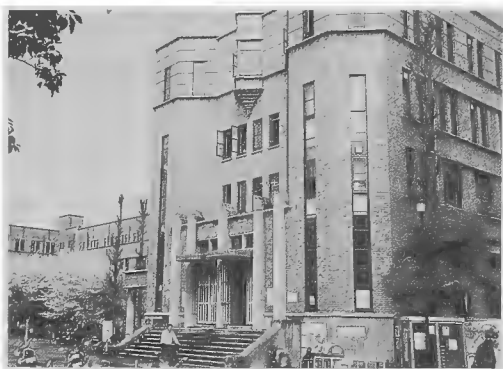
第 3 章

教 育 学 部



第 4 章

大学院法学研究科・法学部



第 5 章

經 濟 学 部



第 6 章

大学院理学研究科・理学部



第 7 章

大学院医学研究科・医学部、 医学部附属病院



第 8 章

薬 学 部



京都大学百年史 部局史編 1

平成9年9月30日 発行

編集 京都大学百年史編集委員会

発行 財団法人 京都大学後援会
京都市左京区吉田河原町15-9

印刷 第一法規出版株式会社
東京都港区南青山2-11-17
